令和６年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２４０１５

プロジェクト名　文化のスクランブル：ＳＤＧｓに向けた日大生による多文化共生推進プロジェクト

プロジェクトの概要

本プロジェクトの目的は、学内外で日常的な小さなスクランブルを作り出し、異文化間交流の機会を創出し、異文化間理解の深化・進化を促進することである。東京では外国人と日本人の文化理解が必要だが、交流機会の少なさが課題である。日大でも留学生は日本社会での適応に困難を抱え、日本人学生も外国人と接する機会が限られている。この問題に向き合い、学内外で異文化交流の場を設け、偏見や誤解を解消する風土を醸成する。日大生が率先して多文化共生を実践し、地域社会への波及効果や大学のイメージ向上も目指す。

プロジェクトの結果・成果

本プロジェクトの活動内容は主に次の４つである。１つ目は、外国文化体験会である。世田谷区主催の「せたがや国際メッセ」と文理学部の学園祭「桜麗祭」に参加し、民族衣装の試着、中国茶芸、春聯、切り絵などを通じて異文化を身近に感じる機会を提供した。２つ目は、大使館イベント報告会である。一般社団法人「国歌の輪」と連携し、計 124 名の日大生を引率してタンザニアやセルビア、クウェートなど 10 数カ国の大使館を訪問した。その成果を「国際理解発表会」で広く共有した。３つ目は、国際理解講演会である。せたがや国際交流センターと連携し、文理学部で「やさしいにほんご交流会」を開催した。留学生、日本人学生、地域の方々を含む総勢 41 名が集まり、講演やゲームを通じて活発な交流が行われた。４つ目は、異文化理解のドラマワークショップである。ドラマ教育の専門家を迎え、『泣いた赤鬼』を題材に、参加者が異なる役割を演じることで多様な視点を体験し、共感や文化的理解を深めた。

本プロジェクトを通じ、メンバーたちは異文化理解や協調性を深めただけでなく、リーダーシップやチームワークを通して大きく成長した。試行錯誤しながら、責任感を学び、チームとしての行動力を磨く貴重な経験となっただろう。本プロジェクトの母体である「異文化研究・交流会」サークルは、留学生や日本人学生が直面する異文化適応の困難を目の当たりにし、設立以来５年以上にわたり継続的に活動を行い、異文化を「知る」だけでなく「理解する」環境を作ることと大学生のリーダーシップ発揮を目指してきた。今後も、この取り組みを他学部や地域へ広げ、多文化共生の輪をさらに広げていくことや、高等教育における学生生活と学びの多様性の拡充を目指す。情熱と経験を基盤に、持続可能な活動を展開していきたい。

活動写真




